

ハチドリ通心(信)  
2009年4月号

発行者 **楽しい株式会社**  
住所 北九州市若松区向洋町10番1  
北九州エコタウン実証研究エリア内  
Tel 093-752-5300 fax 093-752-5303  
E-mail ceres@fun-c.jp URL http://www.fun-c.jp

## 「カーボンオフセット付生ゴミ処理サービス」を開始しました！！

ご参加のメリットは、地球温暖化対策への大いなる貢献です。

食品廃棄物処理にかかるCO<sub>2</sub>排出をゼロ(カーボンフリー)に

CSR(企業の社会的責任)対策に

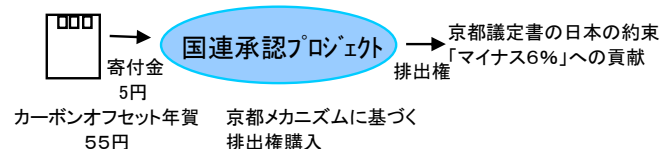
ISO14001、日本医療評価機構等の課題解決策に

### ①カーボンオフセットとは？

カーボン(carbon=炭素)をオフセット(offset=打ち消す)するとは、できるだけCO<sub>2</sub>削減に取り組んだ上で、それでもなお発生してしまうCO<sub>2</sub>をクリーンエネルギー事業を支援したり、植林や森林保護の推進などによって打ち消し、CO<sub>2</sub>を削減しようとするものです。

日本でもカーボンオフセット付年賀状、宅急便、中元商品など、カーボンオフセットを組み込んだ商品やサービスが出ています。

例 カーボンオフセット年賀状



### ②カーボンオフセットの意義

自らが排出するCO<sub>2</sub>を削減できる量は、限界があります。

そこで、他の削減できる事業等に資金援助等を行うことで、その事業で削減されたCO<sub>2</sub>分を自らが削減したものにできます。地球温暖化防止に貢献できること、事業や生活で排出されるCO<sub>2</sub>を排出削減できることとなります。

CSR対策、ISO14001対策等にご活用ください。

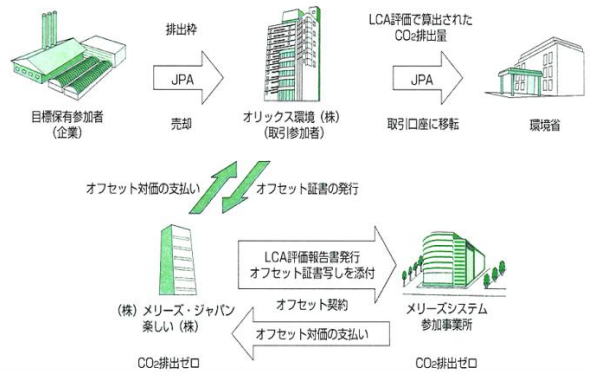
### ③楽しい(株)が取り組む理由(これまでの取組み)

当社が進めてきました食品廃棄物の循環システムは、これまで食品廃棄物を削減し、リサイクルするしくみを提供してきました。また、従来の収集・焼却・埋立をするという方式と比較して、43%のCO<sub>2</sub>削減が可能です。

これは、LCA評価という手法で、数値化することができます。システムにご参加いただくことで、食品廃棄物を減量・リサイクルできるだけでなく、CO<sub>2</sub>も削減できます。しかし、残り57%は排出されます。この排出されるCO<sub>2</sub>もゼロにすべく、カーボンオフセット手法を活用し、CO<sub>2</sub>排出ゼロ(カーボンフリー)が可能です。

### ④楽しい(株)のカーボンオフセットしくみ

環境省が主催する自主取引参加型制度(JVETS)というしくみに参加します。このしくみの参加者に認定されているオリックス環境(株)を通して、排出枠を購入しています。



メリーズシステムに参加する事業所はカーボンオフセットサービスを受けることで、食品廃棄物処理にかかるCO<sub>2</sub>排出をゼロにすることが出来ます。

参加方法は次の通りです。

- ①(株)メリーズ・ジャパン又は楽しい(株)が食品廃棄物量に応じて、お客様毎にLCA評価報告書を発行します。
- ②(株)メリーズ・ジャパン又は楽しい(株)は、LCA評価に基づき、オフセットするCO<sub>2</sub>量を明らかにするとともに、オフセット対価を算出し、オフセット契約を結びます。
- ③お客様は、オフセット契約に基づき、オフセット対価の支払いを行い、オフセット完了です。

なお、本オフセットサービスの根拠としてオフセット証書写しをお渡しします。

#### 用語説明

**LCAとは**：Life Cycle Assessmentの略。製品やサービスなどが環境に与える影響を原材採取から設計、生産、流通、消費、廃棄に至るまでの各段階における資源・エネルギーの消費と環境負荷を定量的に分析し、総合評価することにより、環境負荷の低減および環境改善を図る手法。

**自主取引参加制度(JVETS)とは**：温室効果ガスの排出削減に自主的・積極的に取り組もうとする事業者に対し、一定量の排出削減約束と引き換えに、省エネルギー等によるCO<sub>2</sub>排出抑制設備の整備に対する補助金を交付することにより排出削減を支援するとともに、排出削減約束達成のために排出枠の取引という柔軟性措置の活用も可能にするという制度。

詳しくは弊社営業担当者までお気軽にお申しつけください。

### ハチドリの紹介

今回ご紹介するハチドリは、カーボンオフセットサービスの根拠となっているLCA評価を行っていただいている北九州市立大学国際環境工学部 **松本 亨教授**です。先生のご専門は、環境システム工学、環境政策、環境経済、環境経営で、人間活動の環境影響度の評価とその改善策の提案をされています。松本先生と当社の共同研究である「食品廃棄物の堆肥化による地域資源循環システムの評価」は、3月5日～7日に行われた第4回日本LCA学会において発表されています。



北九州市立大学国際環境工学部 松本 亨 教授

メリーズシステムは、しくみの見える化(見せる化)に取り組んでおりますが、CO<sub>2</sub>削減量の見える化(見せる化)を支えていただいているハチドリです。

ハチドリ通心(信)は楽しい株式会社のホームページでご覧いただけます。  
URL : [www.fun-c.jp/](http://www.fun-c.jp/) (今月号は竹村・中神が担当しました。)